

【投稿】脱原発でいいのか

会員・福井県立大学教授 島田洋一

野菜や魚に、「口にしても健康に悪影響を与える」ほどの放射性物質が含まれていないということは、口にすれば(野菜や魚本来の効用で)健康によいということだ。健康によいものを出荷停止すなわち廃棄処分に追い込むのは権力犯罪、と言って言い過ぎなら、不当な権力行使である。

政治家や役人の保身・責任回避が最優先され、「健康に影響はないが出荷停止」という神経質な自傷行為が続く社会、税金による関係者への「補償」が膨らむ一方の社会が、力強い復興など遂げられるはずがない。

原子力発電についても、不安の声に条件反射して、新增設凍結、さらには脱原発をほのめかすのが、政治家にとっては一番「安全」な道だろう。

平沼赳夫氏のように、「事故が起きたから原子力発電を一切あきらめるのではなく、培ってきた技術をより安全な形で維持、継続する方向を取るべきだ。安全性が担保できれば勇気を持ってやっていかなければならない」(3月30日)と、記者会見で堂々と語り得る政治家は少ない。「各党の代表は、失礼ながら力量不十分」という塚本三郎氏の指摘にほぼ同意するが、平沼氏だけは除くべきではないか。

原発を捨て、体制不安が高まる中東諸国からの原油供給や、メドベージェフとプーチンからの天然ガス供給に頼るのが日本にとってより「安全」な道なのか。まさに政治家の資質が問われる国家基本問題である。